

議員氏名：一石 洋子

議案番号：議員提出決議案第1号

案件名：町の治水対策の強化を求める決議について

討論内容：

私は本議案に反対の立場で討論させていただきます。

今回台風10号の被災を受けた動きであるとは認識しますが

議会として町に要望する内容としては片手落ちであると思います。治山治水は市町村では困難であるため都道府県の管轄事業です。広域の視野なくしてできない事業です。

今喫緊の課題は気候変動時代のリスクマネジメントであり、流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う持続可能な治水対策である「流域治水」への転換が国ぐるみの制度設計に向かう局面にある。という前提であり、NHKで全国報道されたことが町の対策の不備の露呈とか、町は何をやってきたかという論点で始まるのは2元代表制として責任ある議会の決議としては視野が近視眼的すぎる。

県は抜本的に効果が見込めるJR高架下の整備がすぐには困難であることから溢水地点について本来は下流域から進めるべきだが30年計画とは別に特に暫定的な工事を来年から着手、一定の流増量を確保と説明があり、また内水氾濫マップは9月議会決算委員会で町の都市整備課が着手とすでに説明があった。11月2日グリーンインフラ学習会の講師である大学教授は空撮映像から二宮町北部の山側の住宅地に注目していたし、実際に県もリスクある盛り土地帯として注力を決めていることから議会としてはJR工事の早期実現と専門家の知見も入れる広域、流域視野の貯水、遊水、施設の可能性の徹底調査を求めるべきだ。さらに山林崩落の対策・リスクコミュニケーションにも踏み込むべきだ。秦野、中井、二宮、大磯の流域の実装を県は指示、行政レベルで動いており、生態系も活かし、生活環境をグレードアップする山林も住宅地も網羅する流域グリーンインフラ含め改めて議会としての調査研究ののちに説得力のある提言を出すべきと思います。あるべき趣旨と論点が異なるので反対といたします。